

『さっきゃま魂』

R5. 12. 22 第18号

発行人：校長 中山 末永

「さっきゃま魂」を磨いた82日間

12月22日（金）第2学期終業式。1年の中で一番長い2学期でしたが、振り返ってみるととても短い82日間でした。2学期は、運動会・学習発表会などの大きな行事が次々と押し寄せ、その一つ一つに全力で取り組むことで、毎日があっという間に過ぎてしまったような気がしています。また、全ての活動に「最後の〇〇〇」だから「感謝」の気持ちを伝えようという強い思いをもっていたので、これまでとは違った意識をもって毎日を過ごし、充実した2学期のゴールを迎えることができ、大変嬉しく思っています。

そのような学校生活の中で大切にしていたのは「さっきゃま魂をみがく」ということでした。そこで、今日の終業式では次のような話をしました。

さっきゃま魂（4つの心）を磨く機会は、2学期もたくさんあった。

【朝の走ろう運動】

汗をだらだら流しながら1日に何周も走る、雨の日には体育館を走る。毎日続けることで、「自主」「錬磨」の心が磨かれた。

【授業中】

元気に拳手し、堂々と発表する人が増えた。真剣に話を聞いて、うなずいたり、つぶやいたりすることができた。友達と一緒に学習することで、「友愛」「錬磨」の心が磨かれた。

【昼休み】

いろんな学年の友達と仲良く遊ぶことができた。下級生も楽しめるように上級生が優しく接していた。友達と一緒に思い切り体を動かして遊ぶことで、「友愛」の心が磨かれた。

【掃除の時間】

放送が聞こえるとすぐに遊びをやめ、終わりの放送があるまで隅々まできれいに掃除をしていた。反省会では、自分の言葉で「もくもく掃除」を振り返る事ができた。一生懸命掃除をすることで「勤労」の心が磨かれた。

【学校行事】

より良いものになるように全力で練習・準備をした。本番でもテーマ・目標を意識しながら最後まで頑張り続けることができた。磨きのかかった「自主」「友愛」「錬磨」の心は、見る人にしっかり伝わり、たくさんの感動を与えた。

子ども達の挨拶や振り返り等の言葉の中にも、「磨く」というキーワードがたくさん使われていました。職員と子どもの思いが重なり、同じゴールを目指して取り組むことで、実り多い2学期となりました。

3学期は、これまで以上に「閉校」を意識した学校生活になると思いますが、残り少なくなっていく「崎小での生活」を大切に過ごしていきたいと思っています。

今年も残り9日となりました。どうぞ、良いお年をお迎えください。そして、令和6年もどうぞよろしくお願い致します。

